

＜長野女子短期大学 生活福祉専攻 映画上映実行委員会 様＞

上映日：2018/09/22(土) 場所：長野女子短期大学(長野県長野市)



一番大切な事が深くやさしく描かれている。地域の方や高校生との交流にも繋がりました。

●上映会を開催するに至った経緯を教えてください。

専攻教員たちが中高生や地域住民の方に、介護福祉士の仕事を理解していただく機会としてわかりやすいテーマの映画会を開催しようと考え、予告編を見た専攻の学生から「観たい」と声上がり、実行委員会を立ち上げました。

●実行委員会は、どのようなメンバーでしょうか？

長野女子短期大学生生活福祉専攻の「介護福祉士」を目指す1・2年生全員です。

●資金はどのように捻出しましたか？

長野県地域医療介護総合確保基金事業補助金を、介護の次世代育成促進事業として活用しました。

●地域へどのように告知をしましたか？

主に、チラシを配布しました。地域の方には、自治会の方をお願いして配布、高校は先生を通して参加者を募りました。地域の新聞に取り上げて頂いたことで、地域以外の方の参加にも広がりました。

●上映会当日の様子や、上映会開催の感想を教えてください。

地域の方は、介護は特別な事ではなく身近にあるものだとわかったとの感想が多く、地元での映画会開催を喜んでいただきました。高校生からは「介護福祉士に興味が無かったがケアニンですばらしい。」、実行委員会の学生からは「改めていい仕事だと思った。」といった感想をいただきました。

介護の現場の経験のある人は、特に涙が止まらなかったようです。きつい、汚いと表現されることが多い介護ですが、一番大切な事が深くやさしく描かれていたのではないのでしょうか。介護に対するイメージが変わったという言葉が多く聞かれました。

●地域の方々と繋がったエピソードがあれば教えてください。

映画会当日、地域の方から案内や受付を行う学生が自主的に動いている姿を見て、「さすが介護を学んでいる学生達だなあと感心しました。」との言葉をいただきました。

●今後、上映会を開催される主催者の皆さんに向けて、メッセージをお願いします。

小さな手作りの上映会ではありましたが、この映画を通して介護福祉士を目指す学生、地域の方、高校生の交流や介護への理解と次の上映会への橋渡しと多くのことが実を結びました。この映画が広まることを願っております。

ご担当者：
長野女子短期大学 生活福祉専攻
講師 早瀬 真由美さん